

指 定 調 査 研 究

海底岩礁における藻場造成条件 に 関 する 研 究

(要 約)

三木 文興・沢田 満・足助 光久・植村 康・鎌田 専司

所謂、磯焼け現象を呈する岩礁地帯における藻場造成(対象種コンブ)の可能性を検討するため、下北半島尻屋地先に試験区を設定し、試験を実施して来た。

試験はコンブ母藻林施設(延縄式、昭和48年11月設置。昭和49年秋、コンブ遊走子放出)とコンブ(特に幼芽期)の食害動物であるキタムラサキウニ駆除(約6万個、昭和49年9月収獲)という方式で行なった。この結果、昭和50年春には、海底岩礁に1年コンブ群落形成され、海藻類の発芽、生育と藻食性動物との間にはかなり密接な関係があることがわかった。

本年度は昭和50年春に形成された1年コンブ群落を含めた海藻群落の形成状況、キタムラサキウニの生態および収獲、駆除などの調査試験を実施した。

詳細は指定調査研究総合助成事業、昭和51年度漁場改良造成研究報告書(藻場造成条件研究) 青水増資料S51-№9を参照されたい。